

## 豊作祈願に「役買った子どもたち」

平田地区「モグラ打ち(モグラウツ)」

五穀豊穡と家内安全を祈願する新年の伝統行事「モグラウツ」が1月4日、乙房町の平田地区で行われました。地域おこしを目的に再興された同地区のモグラウツ。参加した小学生ら35人は、稲わらで作った打ち具を手にて区内の約200戸を訪問しました。子どもらは、庭先でモグラウツの歌を歌いながら、地面を叩いてモグラを追い払い、ご褒美にお菓子などをもらっていました。平田自治公民館長の徳留次男さんは「地域の皆さんが心待ちにしている新春の楽しい行事です」と話していました。



## 炎に向かい祈る地域の安全

オネッコ(どんど焼き)

しめ縄や正月飾りなどを燃やして、無病息災や安全を祈るオネッコが市内各所で行われました。「パーン、パーン」と竹のはじける音で、鬼を追い払うという意味も込められた行事。山之口町内では、どんど焼きとも呼ばれ、1月11日に川内地区で行われた同行事では、竹を10段組んだ3メートル四方のやぐらに点火されると、瞬間に炎が7メートル立ち上り、夜空を赤く焦がしていました。房野五男さん(山之口町花木)は「家族の健康と地域の安全を祈ります」と願いを込めていました。



## 威勢のいい掛け声に景気回復願う

公設市場取引業務始め式(初競り)

野菜や水産物などを取り扱う公設地方卸売市場で1月5日、取引業務始め式が行われました。市場取引の活性化と1年の安全を祈願する三本締めにつき、池田市長の「はい、なんぼっ」の掛け声で初競りがスタート。競り人や仲買人の威勢のいい掛け声が場内に響く中、野菜や鮮魚などが次々と高値で競り落とされました。今年の景気を占う初競り価格は、長崎県産のタイに3万円、都城市産のイチゴ1箱に1万円、宮崎市産の鹿子ユリ10本に1万円の価格が付き景気回復の兆しが見えました。



## 笑いと運動で元気はつらつ

認知症講演会・都城市健康づくり大会

認知症講演会と健康づくり大会が1月11日、総合文化ホールで開かれました。認知症や健康づくり会の関係者など約1,100人が来場。小松原地区健康づくり会の活動発表や志和池地区同会による健康体操が披露され、来場者も一緒に身振り、手振りで踊っていました。また、関東医療クリニックの医師松本光正さんが「笑って楽しい認知症の予防」と題して講演し、前向きな考え方や、頭を使うことの大切さなどを紹介しました。ユーモアあふれる軽妙なしゃべりに場内は笑いに包まれていました。

